

SMFGの投資銀行業務には、法人のお客さまに対する資金調達手段の提供やM & A・証券化といった多様な金融ソリューションの提供、投資信託や年金等の資産運用商品の提供があります。法人のお客さまが、財務戦略、事業戦略を展開される際の各種ニーズに対し、三井住友銀行の投資銀行部門、大和証券SMBQ(株)をはじめとするグループ金融会社のノウハウを結集し、最良の金融ソリューションをご提案、お客さまにご満足いただけるよう努めております。

【前年度の成果】

平成14年度は、シンジケーション業務において、お客さまの積極的な情報開示をデットIRの開催によりサポートすることで円滑な資金調達を実現するなど、新しい試みにも積極的に取り組んできました。この結果、三井住友銀行による国内シンジケーションの組成件数は349件(前年比157件増加)、金額は4兆5千億円(同9千億円増加)と大きく増加しました。私募債業務についても、取り扱い件数は2,227件、発行金額は7,400億円となり、ともに前年比3倍以上となる高い成長を遂げました。

SMFGの出資会社である大和証券SMBQ(株)においては、従来からの強みである債券、株式の各マーケットにおいて、普通社債(含む銀行・証券)主幹事リーグテーブルで第1位を獲得したほか、新規公開株式、既公開株式主幹事リーグテーブルで第2位を獲得しました。また、国内M&Aリーグテーブルでも第2位へ躍進(昨年は第10位)*しています。資産運用業務については、SMFGの出資会社である大和住銀投信投資顧問(株)が運用委託機関の年金顧客評価調査において2年連続して(運用能力総合評価)第1位**を獲得するなど、幅広い業務においてグループ金融力のプレゼンスを高めることができました。

また、平成14年12月にさくら投信投資顧問(株)と三井・住友金融グループ各社の資産運用子会社4社が合併し三井住友アセットマネジメント(株)が発足、平成15年4月には明光ナショナル証券(株)とさくらフレンド証券(株)が合併しSMBCフレンド証券(株)が誕生、グループ経営における効率化の観点からも進展がありました。

SMFG内の連携の観点からは、平成14年11月以降、三井住友銀行は明光ナショナル証券(株)とさくらフレンド証券(株)と現SMBCフレンド証券(株)、そしてディーエルジェイディレクト・エスエフジー証券(株)との共同店舗を開設しています。

【今後の取り組み】

平成15年度においては、平成14年度に引き続き、グループ金融力を結集して、投資銀行業務を推進していきます。特に、大和証券SMBQ(株)と三井住友銀行が連携してご提供する先端金融サービスは、お客さまのビジネスのご成功をお手伝いできるものと確信しています。

事業再編の分野においては、幅広い情報網をフルに活用し、M & A等付加価値の高いご提案を実施します。お客さまの資金調達に際しては、デットIRの活用など常に新しい視点でサービスを考え、シンジケーションの活用をご提案、調達先の多様化と対銀行取引のイノベーションの成果を、より多くのお客さまに享受いただけるよう努めていきます。また、平成15年4月に三井住友銀行が本邦初となる特許権の流動化のアドバイザーを務めるなど、新たな金融サービスへの取り組みを積極的に実践、MBO、DIPファイナンス、三井住友銀行における信託業務等、タイムリーな金融サービスの提供に努めていきます。

* トムソンファイナンシャル2002年プレスリリース「公表案件アドバイザー・ランキング」より

** 『年金情報』(R & I発行 2002.11.18号)

